

## はじめに

今般、新たに策定された小・中学校の新学習指導要領においては、「学習の基盤となる資質・能力」として「情報活用能力」が新たに位置付けられ、「各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図る」ことが明記されました。また、小学校においてプログラミング教育が必修化されるなど、今後の学習活動において、積極的にICTを活用することが想定されています。

今年度の調査研究活動における研究グループは、昨年度と同様、「発達理解」「ICT活用」「英語教育」「道徳教育」「不登校対応」の5グループに、新たに「授業づくり」「健康・安全」の2グループを加えた計7グループで新たに構成しており、次年度までの2年間を目処に研究を深めております。

発達理解研究グループでは、発達に課題があると思われる子供と、その子供と関わる教員の双方の「困り感」に着目し、改めて子供のつまずきとその要因として考えられる背景を整理することを通じて、適切な支援につなげる方策について探求してまいります。

ICT活用研究グループでは、タブレット型パソコンを活用した主体的・対話的で深い学びにつなげる授業研究を進めるとともに、プログラミング学習を取り入れた授業研究についても深めてまいります。

英語教育研究グループでは、小中の連携を意識した新学習指導要領における英語教育のあり方について、英語でのやり取りやパフォーマンス評価、移行期教材を利用したより実践的な授業づくりについて、研究を進めてまいります。

道徳教育研究グループでは、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標に授業研究に取り組んでおり、義務教育における「特別の教科道徳」の完全実施に向けて研究を進めてまいります。

不登校対応研究グループでは、自尊感情に着目し、「心の温度」を上げるための方策について研究に取り組みました。引き続き、多様な取り組みの紹介や校内体制の提案、関係機関との連携案等を発信してまいります。

授業づくり研究グループでは、新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」に迫る授業づくりをテーマにパフォーマンス課題を通して、深い学びを引き出すために提案授業に取り組みました。その中から成果や課題を洗い出すとともに。カリキュラムマネジメントについても研究を深めてまいります。

健康・安全研究グループでは、中学校の新学習指導要領を受けて「がんについての正しい理解と、健康と命の大切さについて学ぶ」教育を進める端緒として、本市の「がん教育」の現状を把握するためのアンケート調査を実施しました。引き続き先進的な取り組みについての研究を進めてまいります。

今後も、校内研修を内外から支援し、研究団体とも連携をしながら、その成果を発信するとともに、不登校児童・生徒支援事業や教育相談事業とも関連を持たせながら、本市の子供たちの育ちと学びを支援していく所存です。

結びに、本紀要を「研究報告書」としてまとめるにあたり、スーパーバイザーの皆様をはじめ、研究員として委嘱させていただいた教職員、ならびに御理解と御協力をいただいた学校・園の関係者の皆様に、厚くお礼を申し上げます。

平成31年（2019年）3月

吹田市立教育センター  
所長 由上 正幸